

# 2021年度 こどもコミュニケーション公開講座・ フォーラムの報告

## Summary Report of Open Lecture and Forum by Childhood Education and Research Center

こどもコミュニケーション研究所長  
村上 涼

### 1. はじめに

2020年から2021年にかけて、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）感染拡大により、日本社会全体があらゆる面で変化を余儀なくされ、教育・研究分野においても様々な面で大きな変化を迫られたといえよう。2020年4月当初は、多くの大学がオンライン配信を主軸とした形態の授業を開始し、入学式や卒業式、学園祭といった行事においてもオンラインを活用した形態に移行していった。その後、新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、2021年11月頃には、ようやく日本国内の感染者数が減少に転じて、授業や学園祭を対面で行う大学もみられるまでになった。しかしながら、本稿を執筆している2022年1月において、新型コロナウイルスが変異したオミクロン株の感染拡大により、再び感染者が増加し、感染拡大の地域にはまん延防止重点措置が適用される状況となっている。

こどもコミュニケーション研究所においても、この2年間は変化を伴う2年間であった。2020年度の公開講座・フォーラムは、参集が難しいことから開催を見送ることとなった。2021年度は、参集をしなくても開催できる方法を模索し、オンラインでの開催を検討した。参加者によって、情報機器の違いやネット環境が多様であることから、一般参加者がスムーズにオンライン参加できるのか懸念もあったが、一般参加者へのオンライン参加方法のマニュアル作成配布、参加者用のデモンストレーションの設定や、一人

ひとりの参加者へのメール対応など、研究所運営にあたっている関係職員・教員が一丸となつて、ひとつずつ懸念事項に対応した。開催直前には、講師と運営側で打ち合わせやデモンストレーションを実施し、当日はネットワーク上のアクシデントに対応できるような体制を作つて臨んだ。

公開講座やフォーラムの講師の先生方におかれては、オンラインでの開催となり、さぞや戸惑われる部分もあったのではないかと推測されるが、先生方の魅力あふれるお人柄と語り口、何よりも含蓄に富むお話しの内容によって参加者を魅了していただくことができた。オンライン開催を検討した当初は、対面参集開催よりも一体感や双方向性を確保することが難しいのではないかと案じていたが、それは杞憂であったと感じている。

オンラインによる開催は、これまで時間や距離の制約があり、参加不可能であった方々も参加できるというメリットがあり、今後も公開講座やフォーラムの開催方法の選択肢のひとつとして残していきたい。こうしたことから、こどもコミュニケーション研究所がオンライン開催に挑戦したことは、大きな意味があったと考えている。

最後に、公開講座やフォーラム開催にあつての今後の課題について述べたい。公開講座終了後の実施形態についてのアンケートの結果は、「オンラインでの開催がよい30.8%」「どちらでもよい50%」「対面での開催がよい19.2%」とな

り、オンライン形態での開催であっても、一般参加者にとって許容度が高いことが明らかとなった。今後は、対面参集だけでなくオンラインでの開催も視野に入れつつ、講座やフォーラムの内容に適した開催方法を検討していく必要があるであろう。また、把握はできていないが、オンラインだから参加しなかった、もしくはできなかった方々も存在していることを念頭に置いて、対象者に適した開催形態や訴求方法の検討をしていく必要があると考えている。

## 2. 2021年度公開講座について

**【テーマ】** 想像力をひろげるおもちゃ遊び

**【会場】** Zoomを使用したオンライン会場

**【日時】** 2021年10月9日(土)

10時30分～12時30分

**【講師】** 岡田哲也氏

認定NPO法人 芸術と遊び創造協会 人材育成事業部、東京おもちゃ美術館では展示・イベント等の企画、運営に携わっている。また、「おもちゃインストラクター」「おもちゃコンサルタント(通学/Eラーニング)」養成講座の講師として、全国でおもちゃを使ったあそびの研究・実践・ワークショップを担当。NHK Eテレ『まいにちスクスク』などメディアでも遊びアイデアを紹介している。駒沢女子短期大学・植草学園大学 非常勤講師。

**【参加者】** 流山市内の子育て世代の方々、子育て支援に関わる保育・教育関係者、こどもコミュニケーション学科学生(1年生)計58名

**【募集方法】** 事前申し込み先着順、参加費無料

**【後援】** 流山市

**【内容】** 岡田氏より想像力を使用して遊ぶことで、多様な遊び方があることについて、実際のおもちゃの提示をしながらレクチャーがあった。そのレクチャーの合間に、オンライン上の講師の見本をもとに実際に参加者もおもちゃの製作を行い、その作品をオンライン上で互いに見せ合うことや、おもちゃの動きに合わせて身体を動かす遊び等のワークがあり、参加型の楽しい講座となった。最後におもちゃコンサルタント養成講座のワークショップの紹介があった。

## 【公開講座後のアンケート結果】

以下は、一般参加者(学生を除く)による事後のアンケート結果である。

**アンケート実施日**(2021年10月9日講座終了直後)、回答者26名(含む本学学生3名)

(1) 公開講座を知ったのは?

江戸川大学のHP……………10名  
市などのHPや広報……………5名  
知人から聞いた……………2名  
保育園のチラシ……………3名  
その他(公共施設のチラシ、過去の講座参加者へのメール、職場)……………3名  
授業……………3名

(2) 公開講座の内容は?

とてもよかった……………92.3%  
よかった……………7.7%

(3) 感想をお聞かせください。

- ・遊びを通じて、子どもの想像力を育む視点が大変参考になりました。
- ・こどものWSをやっている(今はストップしていますが)者です。遊び時の心の持ち方を学ばせていただけました。想像する、人と違うことを楽しむ(上のなにがあるか?の時)、セリフを考える。表現する。演ずる。などなど、今後意識しながら活動できたらと思います。また是非このような一般人も参加できる講座を江戸川大学で設けていただけたら、有難いです。
- ・ただ遊ぶだけでなく、想像することの大切さを知ることができました。
- ・あるべき遊び方以外の多様性の視点を知れてよかった。
- ・観察→想像→発見のプロセスを通して主体性を育む必要性を感じた。子育てで意識していきたいと思った。
- ・子育て支援センターの職員をしております。想像力×おもちゃという視点をお母さん達にも伝えていきたいなと思いました。決まった遊び方だけではなく、正解がない遊びは、遊んでみて本当に楽しめました。参加させていただき、ありがとうございました。
- ・おもちゃコンサルタント講座受講中です。まさか流山で岡田先生のお話を聞く機会が

あると思わなかったもので、とても嬉しかったです。おもちゃはとても楽しいな、と再認識しました。娘も一緒に参加して楽しんでいました。ありがとうございました。岡田先生の人柄が伝わり、大変楽しい講座でした。

わかりやすかったです。

- ・工作の指人形は参考になった。子どもたちを観察して想像するという基本的なことを思い出しました。

実体験もできて楽しかったです。マンネリ化していた家にあるおもちゃへの向き合い方が変わりそうです。ありがとうございました。

- ・様々なお話が聞けてとても楽しかったです。紙一枚からでも、発想次第で楽しいものが作れると分かったので、自分でも何か考えてみようと思いました。
- ・アイデア次第で遊び方や伝え方が広がると思いました。
- ・とても簡単に作れるおもちゃで、楽しくつくることができた。指先が可愛くなるだけで、何か動作をするときも可愛くなるし、子どもにも喜ばれると感じた。
- ・想像する遊び、とても楽しく参加できました。保育の現場で使いたいと思います。
- ・おもちゃと子どもをたくさん考えるきっかけになりました。とても楽しかったです。
- ・先生のお話を聞いてたくさんのおもちゃのことを、知ることができたし、実際に自分で考えて顔など作り、かわいいものを作ることができたので良かったです。
- ・今後の自分のためになることを聞くことができて、とても良かったです。
- ・今回、おもちゃの先生と一緒に作業してみても楽しかったです。今回教えてもらったものは、簡単に作れて、子どもたちにも喜んでもらえるようなものを知ることができたので良かったです。実際に色々な遊びを知ることができた。実際に作ってみて楽しかった。作った物に名前を付けると思ったより愛着がわいた。
- ・1つのおもちゃで色々な使い方があって面

白かったです。

- ・いろいろな方の発想を見ることができて楽しかった。
  - ・素朴なおもちゃでいろいろな経験ができるのを体験できて楽しかったです。いろいろな話が聞けて、たくさんの方が学べてすぐためになる公開講座でした。ありがとうございました。
- (4) 今後希望する公開講座やフォーラム、イベントの内容について教えてください。
- ・おもちゃ作り
  - ・壁面飾りの作り方
  - ・手作りおもちゃを教えてください
  - ・同じように子育て関係の講座があれば参加したい
  - ・子どもに関する仕事を始めるので、今は全てが学びです
  - ・絵本についての講座
  - ・実際に現場で働いている人の意見をたくさん聞きたい
  - ・今回のような公開講座を希望します
  - ・保育園などでできる集団遊びなど
  - ・子どもの自己肯定感、自己表現などについての話を聞いてみたいです
- (5) 講座の開催方法について、ご意見をお聞かせください。
- ・対面での講座開催がよい…………… 19.2%
  - ・オンラインでの講座開催がよい …… 30.8%
  - ・どちらでもよい ………………50%

### 3. 2021年度フォーラムについて

【テーマ】 二人称的かわりとは何か

【会場】 Zoomを使用したオンライン会場

【日時】 2022年2月26日（土）  
13時30分～15時30分

【講師】 佐伯 胖氏

認知心理学者。公益社団法人信濃教育会教育研究所所長、東京大学名誉教授、青山学院大学名誉教授。認知科学の立場から子どもの学びを研究。著書に『学び』を問い続けて—授業改革の原点』小学館、『『わかり方』の探求思索と行動の原点』小学館、『幼児教育へのいざない 円

熟した保育者になるために(増補改訂版)』東京大学出版, 共著・編著・翻訳に『子どもを「人間としてみる」ということ: 子どもとともにある保育の原点』ミネルヴァ書房, 『かかわることば』東京大学出版会, 『子どもってみごとな人間だ!—保育が変わる子どもの見方』フレーベル館など多数。専門領域は認知心理学, 幼児教育。

【参加者】150名

【参加者】全国の大学教員, 保護者, 保育・幼児教育関係者, 子育て支援関係者

【募集方法】事前申し込み先着順, 参加費無料

【後援】流山市・流山市教育委員会

【内容】近年注目を集めている「二人称的アプローチ」では, 大人が子どもに「あなた」として, 二人称的に「かかわること」によって, 子どもの豊かな心が臨場感を持って見えてくるとされている。このアプローチの視点は, 子どもにかかわるすべての関係者が, 子どもとかかわるあらゆる場面で活用できる視点であると考えられる。今年度のこどもコミュニケーションフォーラムでは, 「二人称的アプローチ」に造詣が深い佐伯胖氏をお招きし, 「二人称的かわりとは何か」というテーマでの講演によって, 「二人称的アプローチ」の真髓に迫っていただいた。活発な質疑応答が行われ, 15分ほど時間が超過して, 盛況のうちに終了した。

【フォーラム後のアンケート結果】

アンケート実施日(2022年2月26日フォーラム終了直後), 回答者24名

(1) 当フォーラムを知ったのは?

江戸川大学のホームページ……………2名  
 フォーラムのチラシ……………8名  
 知人からの紹介……………13名  
 市の広報やホームページ……………0名  
 地域誌……………0名  
 その他(流山市ファミリーサポートセンター)…1名

(2) (1)の質問で「フォーラムのチラシ」と回答された方は, どこでチラシをご覧になったか教えてください。

保育園・幼稚園……………0名  
 子育て支援センター・児童センター……………0名  
 小学校・中学校からの配布……………6名  
 大学・専門学校……………3名

その他(知人から)……………1名

(3) お住まいの地域について教えてください。  
 千葉県流山市……………16名  
 千葉県流山市以外……………8名

(4) フォーラム参加にあたってのお立場について教えてください。

保育教育関係者……………12名  
 保護者……………3名  
 研究者……………8名  
 その他(ボランティア)……………1名

(5) フォーラムの内容は?

とてもよかった……………19名  
 よかった……………5名  
 普通……………0名

(6) 感想をお聞かせください。

- ・二人称的かわりが, 自分の子育てにも関連するものだとあらためて気づきをいただきました。
- ・佐伯先生の二人称的アプローチに関する濃縮されたお話を伺え, 幸せでした。ありがとうございました。
- ・質疑応答も含め大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・あらためて二人称的かわりの意味や大切さを確認することができました。加えて, 佐伯胖先生の素敵なお人柄にも触れられ, 私の中の「DND」が湧き出る時間を過ごすことができました。厚く御礼申し上げます。
- ・二人称的なかかわり方についてなら講義を通して, 自分の子供観や授業観を振り返ることができました。二人称的にかかわろうと意識していても, 相手や日によってそういったかわりができない自分もいるなど反省しています…。単に教育を効果的にするハウトゥーとして二人称的な視点をもつのではなく, 日頃から全ての人を大切な他者だと思えるようなマインドをもっていきたいと思います。本日はありがとうございました。
- ・博士研究に取り組んでおりますが, ご著書から学んだ内容がより深まったように思いました。
- ・ご著書で拝読していた二人称的アプローチについて, 具体的な例とともにお話をうかがうことができ, 理解を深めることができました。

ありがとうございました。二人称的な関わりのなかから「おてんとうさまの目」が生まれるプロセスのところをもう少し詳しくうかがいたかったなと感じましたが、これから自分でも考えていきたい問いをいただいたと思います。

- ・佐伯さんのお話については、冒頭ではありますが、〇〇的アプローチは「腹の決め方」だと言っていたのが、印象的でした。操作の対象として子どもたちを見るまなざし、小学校になると顕著に感じます。佐伯さんが最近引用するノディングズは、engrossment（専心没頭）と言う言葉をつかっていますが、その子にのめり込む、その子の響きに応答できるからだの教育者でいたいと思いました。4年ぶりに佐伯さんのお話を堪能することができました。今日の二人称的アプローチのお話を通して、佐伯先生に助言者としてご指導いただいたことの記憶が掘り起こされました。特に、個人的にも関心があった共同注視についてのお話は、一層深く理解を掘り下げることができました。大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・同感と共感の違いというのは今回新しく知ることができました。まさに勘違いして捉えていました。もう一度2人称的アプローチをベースにして授業づくりや学級経営に取り組みたいと思います。そして、同感ではなく共感して子どもたちに寄り添いたいと思いました。
- ・家庭や職場で二人称的アプローチを意識してみたいと思いました。家庭や職場で二人称的アプローチを意識してみたいと思いました。
- ・とても題名から難しい課題だと感じていたのですが、先生の話聞く中で相手に寄り添うことや、共感することなどの関わりを深く考え学ぶ事ができました。子育ての中り添うことや、共感することなどの関わりを深く考え学ぶ事ができました。子育ての中にも活かせる内にも活かせる内容が沢山あり、とてもワクワクしています。ありがとうございました。
- ・二人称的に人とかかわることの重要性を実感しました。子どもの持っている世界観二人称的に人とかかわることの重要性を実感しまし

た。子どもの持っている世界観を大人がどう共感して豊かな感性を育めるか、改めて考える良い機会になりました。子どもを大人がどう共感して豊かな感性を育めるのか、改めて考える良い機会になりました。

- ・佐伯さんのお話をうかがい、教育に対する見方が非常に変わりました。私自身の教育や研究の参考にさせていただきます。
- ・久しぶりの佐伯先生の講演で充実した時間でした。「2人称的アプローチ」を「1人久しぶりの佐伯先生の講演で充実した時間でした。「2人称的アプローチ」を「1人称的」「3人称的」と対比して話されたのでより理解がしやすかったです。特に、「2人称的」「3人称的」と対比して話されたのでより理解がしやすかったです。「2人称的アプローチ」の中に「3人称的（優しい）アプローチ」が生まれる、との見方が具体的アプローチ」の中に「3人称的（優しい）アプローチ」が生まれる、との見方が具体例と共に腑に落ちました。
- ・子どもと（人と）どう向き合うか。自分がどういう教育をめざすのか、改めて考える機子どもと（人と）どう向き合うか。自分がどういう教育をめざすのか、改めて考える機会となりました。二人称的アプローチをキーワードに職場の仲間と考え取り組んで会となりました。二人称的アプローチをキーワードに職場の仲間と考え取り組んでいきたいと思います。ありがとうございました。きたいと思います。ありがとうございました。
- ・今回のzoomがきっかけとして、みんなで個々の気持ちに寄り添った時代になると良いなと思いました。子育て以外にも通ずるなど、本当に良いお話を聞けて感謝です。
- ・色々事例がありましたので、今までやってきたことはどうだったかを振り返りました。
- ・特に子育て支援に関しては、この親を、子があるパターンにあてはめて三人称的関わりになってしまっていないかどうかを考えるきっかけになりました。赤ちゃんとの関わり的事例も衝撃的でした。舌を出してマネするかどうかは私もたまに実験しますが、生まれて間もない赤ちゃんが関わりを求め、期待してい

ること。心拍数のことなども初めて知りました。同感と共感の違いのお話も少し理解したような気がしました。

- ・ 佐伯先生のお話を沖縄で伺えることに感動しています！オンラインだったため、参加希望の保育士全員で受講することができました。直接お話を伺うことができたので、各々が今の自分の関心に合わせて講演に耳を傾け、より深く自らの保育と向き合う機会を得ることができました。若手の保育士は月曜日に子ども達と会うのが待ち遠しい！と良い表情で園をあとにしたので、私も嬉しい気持ちになりました。
- (7) 今後希望する公開講座やフォーラム、イベントの内容を教えてください。
- ・ 子どもとの関わり方に関する事子どもとの関わり方に関する事
  - ・ 思春期の子どもとの大人としての向き合い方など思春期の子どもとの大人としての向き合い方など・子どもを尊重した保育について

・ IT時代とコミュニケーション、多様性の時代におけるコミュニケーション能力を考えられるような講座等があったら参加させていただきたいです。

・ 共感と言うワードが気になりました。エンパシーとシンパシーの違い、分かったような共感と言うワードが気になりました。エンパシーとシンパシーの違い、分かったような分からないような。。話の趣旨はシンパシーよりもエンパシーでしたが、ノディングズは逆にエンパシーよりもシンパシーを重視しています。作家のブレイディみかこさんも『他者の靴を履く』でエンパシーを論じていましたが、話を聞いてみたいと思いました。

・ 佐伯先生のお話をもう一度伺いたいです。

(8) フォーラムの開催方法について、ご意見をお聞かせください。

対面での開催がよい ..... 0名  
オンラインでの開催がよい ..... 10名  
どちらでもよい ..... 14名

主催：江戸川大学こどもコミュニケーション研究所  
後援：流山市

# 江戸川大学 こどもコミュニケーション 研究所公開講座

## テーマ：想像力をひろげるおもちゃ遊び

おもちゃ遊びに「想像力」を付け足すと、更に遊びが広がります。具体的におもちゃを紹介しながら、参加者の皆さんと一緒に「イメージをすること」「コトバにしてみること」「身体を動かすこと」を体験しましょう。

- 対 象：**流山市内の子育て世代の方々、  
子育て支援に関わる保育・教育関係者
- 日 程：**2021年10月9日（土）10時30分～12時30分
- 会 場：**Zoomによるオンライン講座
- 受 講 料：**無料
- 定 員：**60名（先着順・要事前申込）
- 申 込 方 法：**こどもコミュニケーション研究所HPの  
参加申込フォームから登録
- 申 込 期 間：**2021年8月10日午前9時～9月26日  
（定員に達し次第締切）



参加申込フォーム▲

当講座はZoomミーティングを使用したオンライン講座です。パソコンまたはタブレット端末など、Zoom対応のデバイスとインターネット環境が必要です。お申込後にログイン情報等詳細をメールにてお送りいたします。



講師名：岡田 哲也 氏

プロフィール：東京おもちゃ美術館では展示・イベント等の企画、運営に携わっています。また、「おもちゃインストラクター」「おもちゃコンサルタント（通学/Eラーニング）」養成講座の講師として、全国でおもちゃを使ったあそびの研究・実践・ワークショップを担当。NHK Eテレ「まいにちスクスク」などメディアでも遊びアイデアをご紹介しています。駒沢女子短期大学・植草学園大学 非常勤講師。

### タイムスケジュール

10：15	Zoom 一般参加者入室開始	11：55～	質疑応答
10：30	始めの言葉	12：25	終わりの言葉
10：35～	講義		

お問い合わせ先 江戸川大学企画総務課 〒270-0198 千葉県流山市駒木 474  
E-mail：kodomoc@edogawa-u.ac.jp / TEL：04-7152-9908



主催：江戸川大学子どもコミュニケーション研究所  
後援：流山市・流山市教育委員会

2021年度 子どもコミュニケーションフォーラム



# 二人称的かかわり とは何か

近年注目されております「二人称的アプローチ」では、大人が子どもに「あなた」として、二人称的に「かかわること」によって、子どもの豊かな心が臨場感を持って見えてくるとされています。このアプローチの視点は、子どもにかかわるすべての皆さまが、子どもとかかわるあらゆる場面で活用できる視点ではないでしょうか。

今年度の子どもコミュニケーションフォーラムでは、「二人称的アプローチ」に造詣が深い佐伯胖氏をお招きし、「二人称的かかわりとは何か」というテーマでご講演をいただき、「二人称的アプローチ」の真髓に迫りたいと考えています。

**日程** 2022年2月26日(土)

13時30分～15時30分 (1時間30分講演、質疑応答30分)

**会場** Zoomによるオンライン講演会

**定員** 100名(先着順・要事前申込) **参加費** 無料

**申込方法** 子どもコミュニケーション研究所 HP の  
参加申込フォームからお申し込みください。  
申込〆切は 2022年2月15日(火)です。  
(定員になり次第〆切)



▲参加申込フォーム

当フォーラムは、Zoom ウェビナー機能を使用したオンライン講演会です。パソコンまたはタブレット端末など Zoom 対応のデバイスとインターネット環境が必要です。お申込後にログイン情報等詳細をメールにてお送りいたします。



講師：佐伯 胖 (さえき ひろのぶ) 氏

〈佐伯 胖氏プロフィール〉

認知心理学者。公益社団法人信濃教育会教育研究所所長、東京大学名誉教授、青山学院大学名誉教授。認知科学の立場から子どもの学びを研究。著書に「学び」を問いつづけて—授業改革の原点」小学館、「わかり方」の探求思索と行動の原点」小学館、「幼児教育へのいざない 円熟した保育者になるために(増補改訂版)」東京大学出版、共著・編著・翻訳に『子どもを「人間としてみる」ということ：子どもとともにある保育の原点』ミネルヴァ書房、『驚くべき乳幼児の心の世界「二人称的アプローチ」から見えてくること』ミネルヴァ書房、『かかわることば』東京大学出版会、『子どもってみことな人間だ！—保育が変わる子どもの見方—』フレーベル館など多数。専門領域は認知心理学、幼児教育。

問い合わせ先

江戸川大学総務部企画総務課

e-mail:kodomoc@edogawa-u.ac.jp TEL:04-7152-9908 (平日9時～17時)